

安い部屋だったが、一カ月以上滞在するという約束で、さらに値引きさせた。

河名温の部屋を訪ねると、濃い灰色に塗りつぶされたキャンバスらしいものが幾つも壁にかけてあった。絵ではなかった。抽象画でもない。ただ白い文字のスペイン語で、日付が描かれていた。テーブルの上には、まだ絵具の乾かないキャンバスがあり、そこにも日付が描かれている。

ABRIL 6, 1967

今日の日付だった。

「なんですか、これ？」

私はあっけにとられて尋ねた。

河名温は「うーん」と困惑したような声を洩らした。そして、つねに同じことを質問され、そのたびに同じ答をしているらしく、いたずらっぽく煙にまきつつ、こちらを試すようなある